

肝細胞癌におけるガドキセト酸ナトリウムの取り込みと治療効果の関連の検討

【はじめに】

ガドキセト酸ナトリウム（EOB）は、肝臓に取り込まれるMRIの造影剤です。腫瘍には取り込まれないので、肝臓の腫瘍を見つけやすくなる利点があります。この造影剤は肝細胞癌という腫瘍には取り込まれないことが多いですが、一部の肝細胞癌はEOBを取り込むことが知られています。

EOBを取り込む肝細胞癌は悪性度が低いと報告されています。肝細胞癌の治療は手術、肝動脈化学塞栓術、肝動注化学療法、分子標的薬であるソラフェニブ、放射線治療と多岐にわたります。EOBを取り込む肝細胞癌はこれらの治療効果が高いことが予測されます。そこで、私たちはEOB造影MRI所見と治療効果の関連を調べたいと考えています。

【対象】

2008年5月1日より2014年9月31日の間に、九州大学病院にて肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、肝臓・膵臓・胆道内科もしくは免疫膠原病・感染症内科を受診し、EOB造影MRIを撮像した肝細胞癌の方（約300例）を対象とします。

【研究内容】

肝細胞癌のEOB造影MRIの解析を行います。また、対象の方の臨床情報（年齢、性別、B型慢性肝炎の有無、C型慢性肝炎の有無、アルコール性肝炎の有無、Child分類、Alpha-fetoprotein(AFP)値、Protein induced by vitamin K absence or antagonist-II (PIVKA-II)値)を取得します。生検や手術が行われた方では、EOBを細胞内外に輸送するトランスポーターであるOATP1B3 (Organic anion transporting polypeptide 1B3) やMRP2(multidrug resistance-associated protein 2)が腫瘍にどれくらい発現しているかを免疫染色で評価します。これらと各種治療法による治療効果の関連を検討します。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2018年3月31日まで。

【医学上の貢献】

肝細胞癌の各種治療法の効果を予測する画像的評価法の確立を目指します。

【データの二次利用について】

本研究で得られたデータを別の研究に二次利用する可能性があります。その場合は改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用いたします。本研究で得られたデータは、研究終了後に速やかに消去いたします。記録媒体やCD、DVDに記録されているデータは、個人情報識別できるような情報が不可能な状態にした上で廃棄します。

【研究機関・組織】

研究責任者	医学研究院 臨床放射線科学	教授	本田 浩
研究分担者	九州大学病院 臨床放射線科	助教	藤田 展宏
医学研究院	臨床放射線科学	講師	西江 昭弘
九州大学病院	臨床放射線科	講師	浅山 良樹
医学研究院	消化器・総合外科	准教授	調 憲
九州大学病院	肝臓・膵臓・胆道内科	講師	古藤 和浩
九州大学病院	免疫膠原病・感染症内科	講師	下田 慎治
医学研究院	形態機能病理学	教授	小田 義直

連絡先

担当者：九州大学病院 臨床放射線科 助教 藤田 展宏

TEL 092-642-5695、FAX 092-642-5708

E-mail: n-fujita@radiol.med.kyushu-u.ac.jp